模範愛育班の指定

愛育班を普及し、その活動を充実させるため、次の条件により模範的な愛育班を「模範愛育班」として指定し、見学実習の場とします。

1．愛育班組織が確立し、その活動が他の模範となるものであること。
2．愛育班活動の見学実習地として、本会が行う研修会の研修生又は他市町村の愛育班関係者を受け入れることができること。

令和４年度は下記の愛育班を指定します

山梨県愛育連合会

「愛育班員の手記」入選作一覧

優秀作

県　名	氏　名	所　　属	タイトル
兵庫県	小林（こばやし）　芳子（よしこ）	豊岡市竹野（とよおかしたけの）愛育班	集う居場所「ぱんぷきん」オープン

佳　作

県　名	氏　名	所　　属	タイトル
埼玉県	長島（ながしま）　一枝（かずえ）	久喜市（くきし）母子愛育会	愛育班活動への誇り
山梨県	川住（かわすみ）　成美（なるみ）	南アルプス市愛育会	愛育の心でチャレンジ
岡山県	長畑（ながはた）　昌子（まさこ）	岡山市愛育委員協議会	８万人目の赤ちゃんの訪問から

手記　優秀作

集う居場所「ぱんぷきん」オープン

兵庫県 豊岡市竹野愛育班
小林　芳子

令和２年７月に集う居場所「ぱんぷきん」がオープンしました。駅前の喫茶店が閉店され、にぎわいを取り戻したいという思いはありましたので、そこを使いませんかと愛育班に声がかかりやってみることにしました。

オープンに際しては、多くの団体から支えていただきました。「駅がにぎやかになり、ここはゆっくりできる」と、沢山の笑顔であふれました。スタッフは16名で、午前と午後に分かれ二人で働きます。家賃も発生しますので、スタッフはボランティア。喜んで頂きたい思いだけで進んできました。観光客へのPRにと竹野の特産品を店に置きました。社会福祉協議会の方からお声かけ頂き、店の奥に「ふれあい交流ひろば」ができ、毎月第三火曜日にイベントを開いています。ハロウィンには、地域の子ども達と仮装をして交流しました。若いお母さんから、愛育班の皆様がいて安心ですと言ってもらい、交流しています。

コロナ禍の活動で気づいたことがあります。お茶の席で話す中で、一人暮らしの方だけでなく、家族と同居の方でも孤独を感じるとのこと。これからは、居場所に来られない方へリヤカーで手作りの総菜を運び、町中を歩いて回ってもいいねと話し、若い方にお店を任せることも考えています。

一度、竹野にお越しください。駅を背にして右手と正面にグリーンのコキア達。左手に、黄色い屋根の「ぱんぷきん」。お店の前はにぎやかなのぼり旗。地域の方の居場所のつもりですが、愛育班の居場所にもなっています。笑い声が外まで聞こえます。これからも地域の見守り、声かけがんばっていきたいと思います。

手記　佳作

愛育班活動への誇り

埼玉県 久喜市母子愛育会
長島　一枝

昨年度に続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していたイベントを中止・延期しています。その１つ１つのイベントでお会い出来るはずだった方たちと言葉を掛け合うことが出来ず、交流がなかったことはとても残念なことです。

そんな状況下の令和２年12月14日、緊急事態宣言の間をぬって、「赤ちゃんとあそぼ」を実施致しました。20年以上も先輩愛育班員の皆さまが続けてこられたもので、小学生に“命の大切さ”“生きることの大切さ”を伝える事業です。校長先生との調整や各先生方のご協力を受け、５年生93名に実際の赤ちゃんと同じ重さの人形を使い、抱っこやおんぶ、着替えを実際に声掛けしつつ一緒に行い、沐浴について説明致しました。同日、校長先生が児童たちの笑顔を写した写真集と、１人１人の児童が丁寧に描いてくれた絵と文章の綴りを届けてくださいました。後日班員メンバーと共有し、嬉しさに皆で胸が熱くなりました。今年度は、現在蔓延防止措置期間で延期しており、３月に実施予定です。

また、毎年実施していた「やさしさ・ときめき祭」では、綿あめ販売やバザーで多くの住民の方に喜んでいただいていました。これもコロナ禍にて中止…。しかし、その祭りで行っている“手作りおもちゃコーナー”は子どもたちに大人気で、すぐに材料がなくなっていた状況であり、密を避ければこの状況でも出来るのではないかと考えました。対象を小学生未満とし、10組前後で広い会場を借り、人との接触を少なく、その中で親子の関わり・ふれあいを充実させてほしいと願い、“音の出るおもちゃ作り”と題し実施致しました。参加者も班員もコロナを忘れ、とても笑顔になれた充実した時間でした。

“出来ない”ではなく、今の状況でも“どうしたら喜んでいただくことが出来るのか”を常に考え、皆さんの意見を聞きながら今後も進んで参りたいと思っています。

手記　佳作

愛育の心でチャレンジ

山梨県 南アルプス市愛育会
川住　成美

４年前初めて出席した理事会は、愛育活動について何も知らずに会長を預かった私にとって、別世界のように感じられ、不安で一杯でした。わからないことは保健師さんに教えて頂いて、班長会議を運営していきました。メインイベントのすくすく講座（親子の遊び講座）は毎回話し合い、ゼロから作り上げていくことはまるで学生の頃の学園祭の準備のようで、「大変だけど、やってよかった。」そんな活動になりました。

愛育会の皆さんは行動的で明るい方が多く、一緒にいてとても楽しかったです。名前しか知らない所から少しずつ知り合い、年の差を超えて仲良くなれることは愛育会活動の他にはあまりないように思います。

徐々に話せるようになると、「こうしてみたい。こんなふうにやろう。」と会議で意見が出せるようになりました。「次の班長さんがやりやすいように」を念頭に、赤ちゃんに贈る絵本を新しくし、むし歯予防がテーマの着ぐるみ劇の台本を作り替え、すくすく講座の遊びを見直し、親子体操教室に変更しました。ひとり暮らしの高齢者の声に応えて栄養バランスシートを作り、区の希望者に配布もしました。活動スローガンも見直し、着ぐるみ劇の衣装も新しくし、今はコロナの終息を待つばかりです。

愛育活動での経験が私の宝物になりました。活動を通して、矢崎きみよさんの偉大さを知りました。私も優しい愛にあふれた奉仕の心をつないでいきたいと思っています。自分ができる小さな奉仕の心が誰かにつながっていくはずです。

声かけ見守り活動で、つなげていこう、広げよう、愛育の心を。そしてこれから愛育活動をはじめる方に「楽しかったよ。やってよかったよ。すてきな人にたくさん出会えたよ。」そう伝えたいです。私の愛育活動を陰で支えてくれた家族と出会えたみんなに感謝しています。ありがとう。

手記　佳作

８万人目の赤ちゃんの訪問から

岡山県 岡山市愛育委員協議会
長畑　昌子

令和３年８月上旬「こんにちは。赤ちゃんのお誕生プレゼントの絵本を持ってきました。」と声をかけてチャイムを鳴らします。「ハーイ」という返事とともにドアが開き、汗をかきながらマスクをしたお母さんが赤ちゃんを抱いて素敵な笑顔で玄関に現れました。平成20年度から始まった岡山市愛育委員協議会に委託されている「こんにちは赤ちゃん訪問事業」の８万人目の赤ちゃん宅訪問時の挨拶です。「こんにちは赤ちゃん訪問事業」が始まったばかりの時は、新手の押し売りと間違えられてドアも開けてもらえなかったと、先輩達が話していました。今は認知度が上がり訪問の時のお断りはありませんが、表札を付けない方が多くなり、違う面での困難さがでてきています。

訪問後には報告書を作成しますが、その内容はお母さんとの世間話の中で聞き取るよう工夫しています。話をしている時のお母さんの表情や顔色・話し方など、私が感じたことも報告書に書きます。そうすることで、赤ちゃんを産んだばかりのお母さんの産後うつや孤立などを保健師さんが感じて、お母さんが安心して子育てができる環境に導いてくれると思っているからです。

８万人目の赤ちゃんのお母さんは、３人目の赤ちゃんの誕生をとても喜び、予定日より遅れたことが８万人目の赤ちゃんに選ばれることにつながり幸運と話し、旦那さんも育児休暇を取り育児を手伝ってくれると、家族の協力に対して感謝の言葉を言われていました。

こんなお母さんの訪問は笑顔で終わることができますが、言葉少なく、ちょっと気がかりなお母さんに会った時は、同じ地域に住んでいるので相談相手や話し相手になれることを伝えます。これからも地域の中のすべての赤ちゃんが、すくすくと育ってゆくように支える応援を私はしていきたいです。